

## 「子どもが多いほど保育料が値上がりした問題」を追及 第53回ギャラクシー賞 報道活動部門優秀賞を受賞

HTBは、2015年10月から「子どもが多いほど保育料が値上がりした問題」を追及取材した一連の報道で、2015年度第53回ギャラクシー賞報道活動部門の優秀賞を受賞しました。講評では「報道活動の根幹にある社会性、継続性に加え、取材者の執念を感じた。自治体を動かし、国に迫る問題提起は信頼される報道のあり方を示した」と高い評価を得ました。

今年で第53回を数えるギャラクシー賞はテレビ、ラジオ、CM、報道活動の4部門からなり、このうち報道活動部門は個々の番組枠を超えたキャンペーンや息の長い調査報道、地域に密着した長期シリーズ、スクープ的な報道などを対象にして、2002年に新設されました。

HTBがギャラクシー賞報道活動部門で受賞するのはこれで7回目となり、特に、2012年度の「重い病気の子どものための“そらふちキッズキャンプ”を伝えた一連の報道」(第50回ギャラクシー賞)、2013年度の「北海道・十勝地方で半世紀続く子どもの詩集「サイロ」朗読活動とドキュメンタリー番組「先生、あのね…」上映活動」(第51回同賞)、2014年度に選奨を受賞し、現在も取り組みを継続している詐欺撲滅キャンペーン「今そこにある詐欺」(第52回同賞)と4年連続の入賞を果たし、今回初となる優秀賞受賞となりました。HTBは、地域メディアとして、これからも人々の暮らしや生活実感に根差し、社会の課題に光を当てる地域ジャーナリズムを深化させていくことを目指します。

### 【取材及び番組制作担当 皆方等ディレクターのコメント】

両親が訴える言葉の強さに胸を打たれたこと。

そして、少子化対策に逆行していることに単純に「おかしい」と思ったことが取材を継続しようというきっかけでした。また、子育て支援に力を入れる、としていた札幌市長でしたが、当初「対応は考えていない」と述べた表情からもどこか、違和感を感じていました。

報道部として自治体などを動かすまで継続しようという雰囲気を作ってくれたことも大きかったと思っております。関係者の皆さんに感謝するとともに、今後の取り組みにつなげていきたいと思えます。

### 【入賞した報道活動の内容】

夕方の情報番組「イチオシ！」ニュース内で放送したシリーズ10回に及ぶ調査報道と、テレビ朝日系列で全国放送されたドキュメンタリー番組「テレメンタリー2016 ママの悲鳴～少子化対策“逆行”制度～」の制作(テレビ朝日2016年2月22日放送)

保険料が値上がりした家庭の実態や札幌市・北海道など自治体トップの動きを伝えました。こうした一連の報道活動により、当初「対応は考えていない」としていた札幌市の対策改善や、道内市町村の助成金が予算案に盛り込まれるなどの自治体を動かす報道活動の成果が出ました。

### 【ギャラクシー賞とは】

放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、優秀番組・個人・団体を顕彰するために、1963年に創設。審査は放送批評懇談会会員から選ばれた選奨事業委員会が担当し、賞の決定を第三者に委託する顕彰制度が多いなか、放送批評懇談会の会員が一貫して審査にあたり、賞の独立性を維持しつづけている。